

令和5年度 校内研究の概要

【高畑小の学校教育目標】

- よく考える子
- 心豊かな子
- たくましい子

【国語科の目標】

言葉による見方や考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

【教師の願い】

児童一人一人の「話したい」という気持ちを高めながら、お互いの考えを正しく伝え合う児童を育てていきたい。

【高畑小における国語科（話す・聞く）の課題】

1. 相手意識が十分でなく、話し手として伝わるように話すことや聞き手として意図を捉えようとするのが難しい。
2. 相手の話を聞き、自分の考えと比較したり、結び付けて考えたりすることが難しい。
3. 語彙が少ないため、自分の思いを適切な言葉で表現し、伝えることができていない。
4. コロナ禍明けということもあり、話すこと・聞くことの基礎基本のルール（声量・姿勢等）が身に付いていない。

【研究主題】

伝え合う力を高める「話すこと・聞くこと」の指導の工夫
～対話的な学びを通して～

【目指す児童像（伝え合う力）】

【低学年】

- ・身近なことや経験したことなどから、話題を決めて、話したり聞いたりすることができる子
- ・大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞く子

【中学年】

- ・相手に応じ、理由や事例を挙げながら筋道立てて、話すことができる子
- ・相手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえ、質問や感想を伝えようとする子

【高学年】

- ・主張・理由・根拠をもとに、自分の考えを明確に伝えることができる子
- ・話し手の意図をとらえながら、自分の考えと比べるなどして、考えをまとめようとする子

【研究仮説】

対話的な学びを生かして、「話すこと・聞くこと」の指導を工夫することで、児童の伝え合う力を高めることができるのではないかと。

【研究主題に迫るための手だて】

【研究の内容①】

- 対話的な学びを生かした授業改善
「伝え合う力」を高めるために、対話しやすい場・具体性のある課題の設定や自己内対話の時間の確保、お互いの考えを広げたり深めたりするための教材の工夫等を行う。

【研究の内容②】

- 主体的な学びを進めるための手立て
児童が考えをもち、主体的に学びを進めていけるように、5つの言語意識をおさえるようにする。（①相手意識 ②目的意識 ③場面や状況、条件意識 ④方法意識 ⑤評価意識）

【研究の内容③】

- 相手の発言を受けて話をつなぐための手立て
1対1のコミュニケーションの力の育成を行う。普段着の言葉（「なるほど」「その通り」等）を用いて話し合いができるように、即時的評価を重視し、あらゆる場面を捉え、指導を行う。

【言語環境の向上】

- ・読書学習司書や保護者ボランティアと連携して、読書活動を推進する。
- ・言葉や文に興味関心をもたせる活動や掲示を日常的に行う。

【他教科との関連】

- ・他教科においても、伝え合う力を高めるために、目的に応じて、対話的な学びを生かした授業を行う。

【朝の学習タイム／家庭学習】

- ・朝の学習タイムや家庭学習において、基礎学力の定着をはかる。

【語彙を増やし、定着させるための手立て】

- ・語句の意味をとらえさせるために、辞書の活用、動作化や視覚化、言葉による説明を意図的に取り入れる。

【今年度の研究の成果】

【対話的な学びを生かした授業改善】

- ペア、小グループを作り、話しやすい環境を作ることができた。
- スピーチ活動を通して伝える意識の高まりが感じられた。

【主体的な学びを進めるための手立て】

- 身近な話題を取り上げたことで、話す材料が増え、話したい意欲を高めることができた。
- 話し合い活動を振り返ることで、主体的に話し合いの改善に繋がった。

【相手の発言を受けて話をつなぐための手立て】

- 「話し方・聞き方名人」「相槌あいうえお」を見て、反応することが増えた。
- 思考ツールを活用することで、話し合いを深めることができた。

【言語環境の向上】

- 常に本を手元に置いておくことで、読書をする児童が増えた。
- 話す聞くスキル、ことばのたからばこ、国語辞書、タブレットを活用することで、語彙を増やしたり、語彙の定着を図ったりすることができた。
- 話し合い活動を活かして、他教科（算数、生活、総合）での活動にも繋がった。